

# 平成28年 火災の発生状況(速報値)

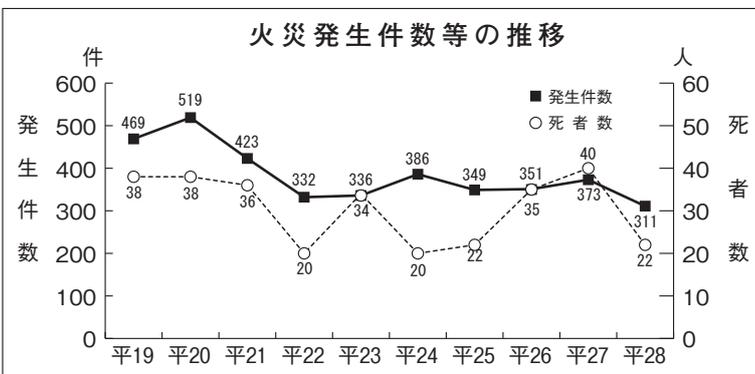
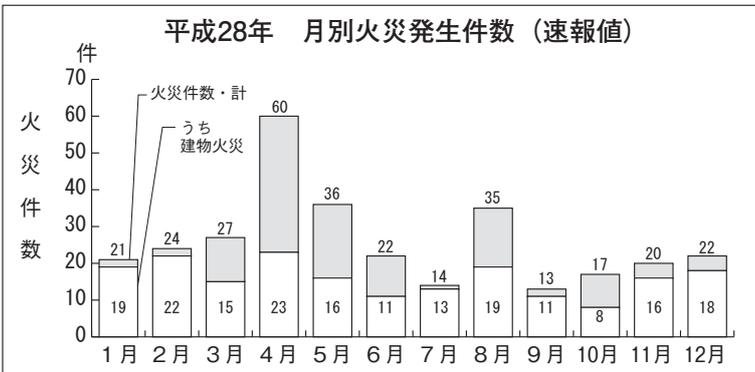
## 死者数は前年を下回る 発生件数は過去10年で最低に



題 字  
初代会長 松野盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
http://www.shoubou-akita.or.jp  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
http://www.matsubarainsatsu.co.jp



(秋田県総合防災課調べ)

平成二八年中の火災発生件数は三二一件で、前年比六二件減。内訳は、建物一九一件(前年比二〇件減)、林野三二件(同一件減)、車両三二件(同一三件減)、その他五六件(同一七件減)となっている。また、平成一九年以降一〇年間の出火件数をみると、平成二〇年に五一九件を記録したものの、概ね減少傾向となっている。

一方、火災による死者数は二二名で、前年から一八名減少した。

平成二十八年度全国統一防火標語  
消しましょう  
その火その時  
その場所で

春の火災予防運動  
四月二日〜八日実施

平成二九年春の火災予防運動は、『消しましょう その火その時 その場所で』の全国統一防火標語を掲げ、四月二日(日)から八日(土)までの一週間、全県一斉に実施されます。

### 住宅防火 いのちを守る七つのポイント

- 三つの習慣
  - 寝たばこは、絶対やめる。
  - ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
  - ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 四つの対策
  - 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
  - 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
  - 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
  - お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

制作 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会  
監修 消防庁 全国消防長会

春の 秋田県火災予防運動  
4/2~4/8

消しましょう  
その火その時  
その場所で

水野 穂波

備えよう! 住宅用火災警報器

このポスターは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

第40回

消防職員意見発表秋田県大会

秋田県消防長会



第四〇回消防職員意見発表秋田県大会(主催:秋田県消防長会)が二月一〇日(金)、秋田市の「秋田ビュートホテル」において行われました。この大会は、若手消防職員に職責を再確認させ、消防士の在り方を提案させる場として毎年開催されております。

今大会では、県内一二消防本部から選抜された若手消防職員が、日頃の業務の中から問題点を抽出し、その対応策や今後の展望などの考察を加え、それぞれのテーマに沿って、堂々と力強く訴えました。

審査の結果、最優秀賞一名、優秀賞二名が選ばれました。

■最優秀賞

大曲仙北広域消防本部

消防士 茂木雄大

燃烧実験を活用した避難訓練

■優秀賞

男鹿地区消防本部

消防士 山田駿介

待っててください、私が助けます

秋田市消防本部

消防士 佐藤怜弥

もう一つの目線

意見発表のテーマと発表者名 (発表順)

- 輝ける場所を探して  
由利本荘市消防本部 須田祐加
- 命を守るKYT  
能代山本広域消防本部 牧野孔智
- 救急車本来の姿を取り戻すために  
湖東地区消防本部 前川海斗
- 義務教育における救命教育  
にかほ市消防本部 渡辺賢
- 待っててください、私が助けます  
男鹿地区消防本部 山田駿介
- 消防団と作る災害に強い街  
大館市消防本部 日景雄大
- もう一つの目線  
秋田市消防本部 佐藤怜弥
- その「いつか」の為に・・・  
北秋田市消防本部 佐藤健翔
- 心に残る防災教育  
湯沢雄勝広域消防本部 佐藤拓真
- 見える通報からの第一歩  
横手市消防本部 岡本卓磨
- 伝えたい  
鹿角広域消防本部 山崎雄平
- 燃烧実験を活用した避難訓練  
大曲仙北広域消防本部 茂木雄大

最優秀賞の大曲仙北広域消防本部茂木消防士は県代表として、四月二六日(水)、新潟県で開催される東北大会に出場します。ここで、最優秀賞並びに優秀賞を受賞した意見を紹介します。

燃烧実験を活用した避難訓練



大曲仙北広域消防本部 茂木雄大

煙の色が徐々に黄色みがかかり、やがて大量の煙が黒く脈打つような出方に変化し、部屋の隙間から漏れ出

す。煙の中に炎がチラチラと見える状態になると、空気が入り込んだ瞬間に炎が一気に噴き出す。

いわゆるバックドラフトです。一般の方たちはこの火災の仕組みを知りません。これをいくら口で説明しても、避難訓練や初期消火訓練の行動には、なかなか生かされていないのが現状です。せつかく訓練を行っても、訓練動作や日常の意識への作用が弱いのでは、目的は十分に達成されたとは言えません。

私は、訓練に参加する方たちに、燃え広がり方や煙の流れ方、ひいてはバックドラフトの恐ろしさを具体的に知っていただくことが効果的だ

と考え、その映像を作成し、訓練で活用してみました。

この燃焼実験の映像作成のポイント、バックドラフトがはつきり分かるようにすることです。そのため、コンパネで作成した箱型の小さな部屋は、正面には出入り口に見立てた開放部分があります。この開放部分を任意に開閉することで、空気の流入をコントロールし、バックドラフトのタイミングが調整可能になりました。これにより火災を極限まで成長させ、開放部分を急激に開放することで、炎が一気に噴出する瞬間を確実にとらえることができました。

次は、この映像を効果的に活用した避難訓練のポイントになります。訓練の行動に入る前に、燃焼実験映像を見ていただきながら火事の特徴を説明しました。

「火事の初期の段階では煙は水蒸気を含んでいるため白く、量も少ないです。徐々に煙の色が灰色に変化し、



部屋の天井付近の隙間から煙が連続的に出るようになりますが、この段階ではまだ初期消火は可能です。

れが黒くなり天井付近のあらゆる隙間から出るようになったときに、窓やドアを開けると・・・一気に炎が噴き出します。」

参加者からは驚きの声と同時に、どのように行動すればよいかと具体的な対処方法の質問がありました。このとき私は普段の避難訓練とは違う参加者の意識とともに、燃焼実験映像に確かな手応えを感じました。

映像を見てもらったあとには、「ドアを開けるときはドアを盾にして、炎の急な噴き出しに備えて消火器で初期消火をする」と安全です」と補足しました。すると、以前の訓練で見られがちだった受け身の姿勢が、ドアの前で姿勢を低くし、自分の身を守りながら消火活動するなど、現場に即応した主体的な行動へと劇的に変化しました。そして、通報の仕方から避難誘導の仕方まで、分からないところは積極的に質問するようになりました。このたった一つの燃焼実験映像が、参加者の意識をここまで変えることができたのです。

火災の初期における対応は、火事を経験したことも見たこともない一般市民です。実験映像を活用した避難訓練の積み重ねと継続こそが、現場状況に応じた行動につながり、避難訓練の形骸化を改善できると確信しています。

待っててください、

私が助けます



男鹿地区消防本部  
山 田 駿 介

今、あなたの近くで人が倒れています。あなたはそのことに気付くことは出来ませんか? 「すみません、誰か来てください」これは私たちが救命講習で教えている最初のフレーズです。

現在、住民の方々に積極的に救命講習を受けてもらい、心肺蘇生法を習得してもらい取り組みが行われています。ですが、講習を受けていても、偶然近くを通りがからない限り、人が倒れたことを知るのには難しいのが現状です。また、通報者自身も、突然の出来事に気が動転している中、心肺蘇生法を行うことは容易ではありません。

しかし、先日その場に居合わせた方の心肺蘇生法により、救急車が着く前に心拍が再開し、病院に着いた時には会話もできるまで回復した事案がありました。このように、心肺停止状態でも正しい救命処置を行うことが出来れば、助けられる命があるのです。

心肺蘇生法を出来る人たちが救急車よりも早く助けに来てくれる仕組みがあれば、より多くの人の命が救

えるのでは!

そこで私は考えました。近くに心肺蘇生法を必要とする人がいることを伝えてくれるアプリを作るのです。そして、そのアプリを消防職員や医療従事者、上級救命講習受講者などの携帯電話にインストールしてもらうのです。

このアプリを携帯電話にインストールしておく、119番によって、通信司令室から救急車の出場指令が出されると同時に、近くにいる人にも、HELPAアラームが届く仕組みになっています。

併せて近くにあるAEDと傷病者までの地図がナビ表示され、サポートしてくれます。

この機能により、救急車よりも早く現場へ複数の協力者が駆け付けることができ、早期に心肺蘇生法を実施することや、AEDの使用により、従来よりも救命の可能性の高いパトンを、救急隊に渡すことが可能となるのです。

私には忘れられない現場があります。「六〇台男性、心肺停止状態」との救急要請を受け現場に到着すると、女性が涙ながらに横たわった男性にしがみついていた。「お父さん!起きて!」女性の悲痛の声を耳にした。病院到着後に心拍再開。しかし、意識が戻ることはありませんでした。



帰り際、家族から「本当にありがとうございませう」と涙いっばいに溜めた目で感謝の言葉をいただきました。私たちは、命を助けることはも

ちろんですが、社会復帰を果たせるように処置を行うことが重要な任務です。それが出来なかった私には、「ありがとう」という言葉が深く胸に突き刺さりました。

一人でも多くの命を助ける。そしてまた、元気な姿で大切な人へ会わせてあげたい。それが私の願いです。人間には考えたことを形に出来る知能、技術があります。このアプリの普及により、その場に居合わせた偶然が必然になり、救命のチャンスを大きく広げるのです。

しかしこれは、現場の私たちの力だけでは実現は困難です。それでも今後、少しでも多くの人の命が助かるように、救命の最前線にいる私たち、新たな可能性のきっかけを作り、新しい時代に向け前進していかなくてはなりません。その可能性の一つを伝えるために、私は今、ここに立っています。

「すみません、誰か来てくださ

い」のフレーズから始まる救命のリリース。119番通報の後、真っ先にあなたの元に駆け付けてくれるのは救急車ですか？それとも、「待っててください。私が助けます」

### もう一つの目線



秋田市消防本部  
佐藤 怜 弥

災害現場の状況を、言葉だけでなく、視覚で伝えること。

私は災害現場におけるアクションカメラの導入を提案します。アクションカメラとは主に、スキーやスノーボード、ダイビングなどアウトドアスポーツの光景を、自分の目線で撮影することに最適化された、小型デジタルカメラのことです。

従来のハンディカメラと違い、アウトドアでの使用を想定しているため、小型で軽量かつ防水機能、耐衝撃性、手ぶれ補正機能などが備わっているのが特徴です。

このアクションカメラを、隊員のヘルメットに取り付け、「もう一つの目線」として活用します。言葉でしか伝えることができなかった無線通信に、新しく映像を取り入れることで、視覚による情報伝達が可能に

なるのです。そして映像の活用方法としては、大きく次の二つが考えられます。

第一に、撮影した映像をリアルタイムで送信することで、早い段階から情報共有が出来ることです。

最前線で活動中の隊員から送られてくる映像は、現場指揮本部や指令室からも見ることが出来るため、様々な角度から、客観的な判断が可能になります。

これは、活動方針の決定や、二次災害の防止、災害の拡大防止等に大きな効果があるとともに、現場活動におけるダブルチェック体制が確保されることで、また、映像があることで、無線通信を控えることが出来るために、隊員のストレスの軽減に繋がります、作業効率の向上が期待できます。

さらに、災害の規模が大きくなるほど映像の効果が顕著に現れます。例えば緊急援助隊として限られた小



隊が他県に出勤した場合や、NBC災害のような特殊な災害の場合、現場から離れた場所にいるながら、リアルタイムで現地の活動状況を把握できます。二次・三次隊の後

続隊も現地のイメージを掴みながら出動することが可能になります。映像というコンテンツの長所である情報伝達力を生かすことは、現場活動の安全と、活性化になるのです。

第二に、一つの現場活動がデータとして保存・管理されることです。

これまでの、紙ベースの報告書では感じる事ができないスケールで、伝えることが可能になります。特に、特殊な災害現場での映像は、現場に出場出来なかった職員や、若い職員の貴重な教養資料となることでしょう。

また、このほかにも、現場で活動した隊員のブリーフィングでの資料や、火災現場での出火原因特定などにも用いることができる有効な資料となります。

自分たちの活動データを、リアルタイムで活用しながら、事後の検証・教養資料でも活用することは、今後の消防のレベルアップに繋がります。

映像を扱うことで、肖像権の侵害や、個人情報流出などの問題も発生するでしょう。しかし、きちんとしたガイドラインを策定すること、外部への持ち出しを禁止することで、民事上の問題は防げるはずで

す。市民サービスの質を低下させることなく、消防の目的を果たしていくためには、利用できるものを積極的に利用し、変化を恐れずに、柔軟に



にかほ市消防本部  
渡辺 賢



湖東地区消防本部  
前川 海斗



能代山本広域  
消防本部  
牧野 孔智



由利本荘市消防本部  
須田 祐加

■発表者の紹介 (入賞者を除く)

対応していく必要があると、私は考えます。  
複雑多様化・大規模化する災害に立ち向かうために、情報を集約し、共有することが、安全な現場活動の確保と、被害の軽減に繋がります。  
その第一歩として、アクションカメラが踏み出します。



鹿角広域消防本部  
山崎 雄平



横手市消防本部  
岡本 卓磨



湯沢雄勝広域  
消防本部  
佐藤 拓真



北秋田市消防本部  
佐藤 健翔



大館市消防本部  
日景 雄大

平成二八年度  
消防功労者消防庁長官表彰

表彰式は、三月八日(水)、ニッソヨーホール(東京都港区虎ノ門)において行われました。

◎功労章(一名)

能代山本広域市町村圏

組合消防本部

消防正監 泉 篤

◎永年勤続功労章(七二名)

消防吏員 一九名

消防団員 五三名

◎竿頭綬(一機関)

秋田市消防本部・秋田市消防団

平成二八年四月六日に発生した合板製造工場の火災は、近年の秋田市における火災では焼損面積(二八、八九三㎡)、損害額(約一〇億円弱未確定)ともに最大級の火災であった。

鎮火まで三日間を要した火災ではあったが、常備・非常備一体となった昼夜を問わず防ぎよ活動により、第二工場は全焼したもの、第一工場の一部を延焼するに止めることに成功した事案で、二ヶ月後には、火災前の八五パーセントまで生産が回復し、県内外の関係業界に与える影響を最小限に止めることとなった。  
また、消防団は、災害活動のみならず、地域の安全や防火広報など懸命な活動を行っており、市民から称賛されているところである。

株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182) (32) 3880  
FAX (0182) (32) 0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
消防器具各種  
火災報知器各種  
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183) (42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73)2588

# 秋田県地域防災計画の修正について

秋田県総合防災課

## 1 修正の基本的な考え方

秋田県地域防災計画については、平成26年3月に東日本大震災を踏まえ地震・津波対策を強化するなどの全面的な修正を行いました。その後の土砂災害、火山噴火など自然災害の発生を受けた国の「防災基本計画」修正等の状況変化や県の取組、昨年熊本地震や台風第10号など最近の災害対応の教訓等を踏まえ、必要な見直しを行うことにより、大規模災害等への対応の充実・強化を図るものです。

## 2 経緯

昨年5月より庁内や関係機関等との検討を重ね、市町村・消防本部からの意見聴取、パブリックコメント、県議会への報告等を経て、3月10日に開催された秋田県防災会議において、修正が決定されたところです。

## 3 主な修正項目

- 土砂災害に対応した避難誘導対策等の強化
  - ・ 土砂災害の危険性のある区域の明示等
  - ・ 土砂災害警戒情報や「避難準備・高齢者等避難開始」の活用
- 登山者等も含めた火山災害への対策強化
  - ・ 火山防災協議会の組織体制等の整備
  - ・ 火山噴火からの適切な避難方策等の検討
- 関東・東北豪雨災害等を踏まえた水防体制の強化
  - ・ 最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定に対応した避難体制等の構築
  - ・ 実効性のある避難計画の策定
- 大雪等災害時における放置車両及び立ち往生車両対策の強化
  - ・ 緊急通行車両の通行を確保するために必要がある場合における道路管理者による放置車両等の移動
- 津波防災地域づくり法に基づく「秋田県津波浸水想定」の結果反映
- 熊本地震を踏まえた対策の強化
  - ・ 大規模災害を想定した物資や人的支援等に関する「広域受援計画」の策定
  - ・ 車中泊等の被災者支援やエコノミークラス症候群予防に向けた取組の実施
- 台風第10号による水害を踏まえた対策の強化
  - ・ 避難情報の名称変更による適切な避難行動の促進
  - ・ 減災対策協議会の設置による防災・減災対策の強化

## 4 今後の対応

市町村や消防本部などの防災関係機関等へ計画書(冊子)を配付するほか、ホームページなどで、広く県民に周知する予定です。

消防関係者の皆様には、防災訓練などの様々な機会を捉えて、避難情報の名称が変更になったこと等の修正内容を地域住民の皆様にお伝えいただければ幸いです。

◆ 消 防 団 員 研 修 ◆

秋田県消防学校

第3期幹部教育指揮幹部科分団指揮課程			第62期基礎教育			
平成29年3月4日(土)~5日(日)			教育期間	平成29年3月11日(土)~12日(日)		
38人 (19消防団)			入校者数	28人 (7消防団)		
分団長、副分団長の階級にある者			対象者	入団して概ね3年未満の消防団員		
			集合写真			
消防団名	階級	氏名	入校者名簿	消防団名	階級	氏名
鹿角市	副分団長	齊藤良孝		鹿角市	団員	米田雅之
大館市	分団長	佐藤憲一	鹿角市	団員	関太陽	
北秋田市	分団長	小坂正浩	北秋田市	団員	金信人	
上小阿仁村	分団長	高田恒	北秋田市	団員	織山英人	
能代市	分団長	戸松博美	北秋田市	団員	荒川文人	
能代市	副分団長	成田義紀	男鹿市	団員	高橋千直	
三種町	分団長	加藤博美	八郎潟町	団員	祖平和則	
三種町	分団長	田崎成美	八郎潟町	団員	村井良平	
男鹿市	副分団長	中田金悦	八郎潟町	団員	千田敏志	
男鹿市	部長	角崎裕継	由利本荘市	団員	今野和也	
八郎潟町	副分団長	齊藤隆男	由利本荘市	団員	佐藤正幸	
秋田市	分団長	鎌田勇	由利本荘市	団員	大友一行	
秋田市	分団長	石井新一	由利本荘市	団員	佐々木博之	
由利本荘市	副団長	佐藤義一	由利本荘市	団員	小野寺裕也	
由利本荘市	分団長	阿部昭彦	由利本荘市	団員	畑山和則	
由利本荘市	分団長	茂木和也	由利本荘市	団員	佐々木彰	
由利本荘市	分団長	伊藤博	由利本荘市	団員	佐々木信太郎	
由利本荘市	分団長	堀嘉哉	仙北市	団員	高橋章太	
由利本荘市	分団長	三浦一成	仙北市	団員	門脇丈	
由利本荘市	分団長	佐々木直勝	仙北市	団員	門脇良太	
由利本荘市	分団長	釜台敏勝	仙北市	団員	阿部峻雅	
にかほ市	分団長	佐藤政昭	仙北市	団員	田口雅之	
にかほ市	副分団長	佐々木智也	湯沢市	団員	東海林智	
にかほ市	副分団長	佐々木讓	湯沢市	団員	渡部裕也	
大仙市	分団長	佐藤秀世	湯沢市	団員	鈴木雅貴	
横手市横手	分団長	伊藤信市	湯沢市	団員	長瀬良太	
横手市増田	分団長	佐藤一生	湯沢市	団員	佐藤力	
横手市平鹿	副分団長	高橋千登勢	湯沢市	団員	伊藤優介	
横手市平鹿	副分団長	長沢守夫				
横手市平鹿	副分団長	伊勢力隆				
横手市山内	分団長	高橋隆洋				
横手市大雄	副分団長	佐藤通洋				
湯沢市	分団長	阿部博				
湯沢市	副分団長	武石吉廣				
湯沢市	副分団長	高橋喜信				
湯沢市	副分団長	岩城栄悦				
湯沢市	部長	片桐輝雄				
東成瀬村	分団長	小田原克己				

消防半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

支部情報アラカルト

平成二八年度秋田県・鹿角市

冬期防災訓練

平成二九年二月五日(日)、鹿角市八幡平谷内地区において「平成二八年度秋田県・鹿角市冬期防災訓練」が実施されました。

この訓練は平成二六年度から秋田県と特別豪雪地帯に指定されている県内一三市町村が共催実施する訓練で、鹿角市では初めての開催となりました。

想定規模はマグニチュード七の地震が発生し、雪崩、家屋倒壊などの被害が相次ぎ、地元自治会の避難訓練や消防団、自衛隊、警察及びDMAT等は災害現場での連携した訓練を重点に、各関係機関・団体から約三五〇名が参加しました。

このうち、鹿角市消防団協力事業所は雪崩発生のため除雪ロータリー車、タイヤローダーを使用して道路啓開訓練を行いました。指揮者は徒歩で



先行し、雪中を棒で突き刺して安全が確認された雪面に着色表示を行い、重機を進ませました。また、車両の進入困難な場所へはスノーモービルを活用し、迅速な情報収集としての機動力を発揮しました。



鹿角市消防団にあつては、落雪による埋没者捜索救出訓練に参加し、隊列を組んで生き埋めとなった要救助者を捜索用の棒で雪中に差し込み捜

索を行い、発見時の状態から三角巾を使用した応急処置やAEDを使用した救命処置を行いながら、応急救護所への搬送訓練を実施しました。

災害発生時は自衛隊、警察、医療機関等の各関係機関との連携した活動が求められますが、人命救助は時間との戦いでもあり、地元消防団と消防団協力事業所が保有する特化した機動力と重機を現場投入した活動の必要性を改めて実感しました。

今回の訓練は、冬期間における地震発生時の危険性と防災意識の向上について再確認した大変有意義な訓練となりました。

(情報提供 鹿角支部)

平成二九年度

秋田県山火事予防運動

この運動は、山火事が多発する春季において、県民一人ひとりに山火事予防思想の普及を図り、森林資源と自然環境の保全に努めることを目的に実施するものです。

統一標語

火の用心

森から聞こえる

ありがとう

実施期間

平成二九年四月一日(土)から五月三一日(水)までの二ヶ月間

火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成29年		平成28年			同期比較	
	2月	累計	2月	累計	年計	2月	累計
建物	14	30	22	41	191	- 8	-11
林野	0	0	0	0	32	0	0
車輛	3	6	0	1	32	3	5
その他	3	4	2	3	56	1	1
合計	20	40	24	45	311	- 4	- 5
死者数	3	4	3	6	22	0	- 2
負傷者数	6	10	4	12	54	2	- 2

モリタ消防ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

シバラポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

株式会社  
株式会社

能代消防センター  
協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651